玉川上水・野の花だより　No. ５０

イヌタデ（アカノマンマ）　*Persicaria longiseta*

東京大学名誉教授　　中央大学研究開発機構・機構客員教授

石川　幹子

2026 年　11 月 6 日



ゆく秋を惜しむように、イヌタデの花が、笹塚橋の袂（たもと）の、玉川上水の水面に映えています。

タデ科イヌタデ属の一年草で、高さは 20～40cm くらいで、直立して分枝し、先端に 1～5cm 程の花穂をつけ、紅色の小さな花をたくさんつけます。

托葉は、さやのようになっていて、長い毛が生えており、オオイヌタデなどと区別することができます。

かつては、道端に、どこにでも咲いていましたが、稲荷橋から笹塚橋をへて、北沢橋、相生橋、美寿々橋、そして二字橋まで歩いてみましたが、なんと、イヌタデは、笹塚橋の袂にさいている、この写真の花が唯一でした。水面から徐々に陸地に移行するエコートン（遷移帯）という立地に生きています。失われいく武蔵野の野草を、未来へと繋いでいくためには、それぞれの花が、どこで生きているのかを丁寧に観察し、人が優しく手を差しのべることが大事であることが、わかります。別名を「アカノマンマ」といいますが、昔、おままごとをするときに、赤飯として用いたからと言われております。子供たちに、そんな未来をプレゼントすることも私たちの役割なのかも知れません。



写真　イヌタデ
撮影
2026 年 10 月 27 日